

令和4年度を迎えて

TOPICS



令和4年もコロナ禍の中、新年度を迎えました。診療制度の根幹である診療報酬は2年ごとに改定になりますが、今年は改定の年です。今回の改定では、地域（主に中学校区を想定）内での、医療資源の役割分担、連携が一層求められています。オンライン診療などは直接受診できない高齢者や、感染患者さんにメリットになるように進めていくべきですし、か

かりつけ医との関わりも明確になっていくものと思われます。

当院では、新しい先生方を迎え、診療体制の強化と、6月から始まる令和4年度がん検診（全種類のがん検診が当院で一括受診することが出来るようになります）の受け入れ準備を進めてまいります。今年度もよろしくお願いいたします。

院長 河野 昌史

今月から二重まぶた埋没法、下眼瞼脱脂の美容手術を開始いたします

美容医療に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？美容外科は自費診療の一部であり、例えば保険診療外の抗がん剤治療や、歯科のインプラント等と同様の自費診療の一部ではありますが、健康な方に行う治療であるため、訴訟等がニュースで取り上げられる機会も少なくなく、マイナスイメージを持っている方も多いと思います。顔面の解剖の理解、適切な説明と適切な方法で行うことでより安心して行っていただけと考えております。

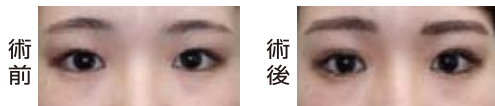
形成外科では2022年4月から埋没法による重瞼形成、下眼瞼脱脂による下眼瞼の除皺術を開始いたします。

適応に関して

「広い二重にしたい」「人前に出るため、目の下のたるみが気になる」という方は多くいらっしゃると思います。美容外科に関して大切なことは適応と希望のバランスを見極めることと考えております。例えばまぶたの脂肪が厚い場合においては、埋没法は外れやすく、せっかく受けた施術であっても元に戻るのが早く、満足のいく結果にならないことがあります。下眼瞼脱脂においても同様に適応があるため、外来診察時に適応があるか、また要望を伺いながら別な方法も含めて最適な方法をご提案致します。

埋没法について

埋没法は重瞼形成で最もポピュラーな方法で、元々は逆さまつげの治療のために形成外科、眼科などが行っていた方法です。まぶたに小さく切開を加えた後、細い糸をかけることで、二重の幅の調節、一重から二重を作ることができます。糸を抜くことで元に戻すことができるというメリットがあります。術後2週間程度は腫れが出ますが、また、アイプチ等で重瞼線の跡が着いてしまっていた場合は、術前1週間程度は何もせず手術を行ったほうが、良い結果になりやすいです。



下眼瞼脱脂について

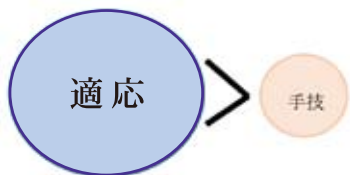
聞き慣れない言葉かもしれませんが、目の下のたるみに対し行う方法で、目の下の安全な部分を切開し、余剰な脂肪を切除する方法です。一度取り除いてしまった脂肪は戻らないため、過度に取りすぎてしまうと、凹んでしまい元に戻せません、そのため控えめに切除し、気になるようであれば再度切除するか、別の方法を提案することがあります。



その他、当科ではイボ・ほくろの切除を炭酸ガスレーザーで行っております（美容手術）。ご希望の方は、受付または形成外科外来までお申し出ください。

東名厚木病院 形成外科 高梨 遼 草間 峻

術後2週間程度腫脹が出現します、また皮下出血により一時的に下まぶたが変色します。



とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950

